

大地も人も、今“花盛り”の山陰です!

大山中海エリア・イベント情報紙

FREE 0円 18号

奇数月・4万部

2008

5 May

6 June

http://www.daisenking.net

大山王国

NPO法人大山中海観光推進機構  
http://my.sanin.jp/dnkankou  
see専用アドレス: see@daisenking.net

see!



初夏の夕べ、空に黄昏が迫り来る頃に、今年も大山大野池の湖畔に、心をつつ美しい調べが流れ始めます。



一輪ずつ持ち寄った花をブーケにしてアーティストに!



キャンドルで会場を演出



### 御幸(御輿行幸)

5/24(土) 10:00~12:00

平安時代から大山寺に伝わる権現様を配した神聖な行列。目にもまばゆい新緑の中、御輿を中心に、古の装束をまとった稚児や錦旗、鉄砲持、僧兵など総勢150人もの行列が参道を練り歩きます。厄年を迎えた男子は、ぜひ御輿を担いで厄払いを!ということ参加者の募集も受け付けています。

●問い合わせ・申し込み/TEL.0859-52-2502 (大山町観光局)

## 夏至祭 ~夕暮れコンサート~

6/21(土) 17:30開演

大野池湖畔(大山レークホテル)芝生広場恒例となった「夏至祭」の夕暮れコンサート。毎年多くの皆様にお越しいただき、素晴らしいロケーションの中で上質の音楽を楽しんでいただいておりますが、今年のゲストは、山陰を拠点に活躍中の女性デュオ「六子」と、沖縄で永く演奏活動を続けている島唄の第一人者「大工哲弘」。いずれも自分のふるさとをこよなく愛し、地元での活動を大切にしている素晴らしいミュージシャンです。さあ今年、私たちはどんな感動に出会えるでしょう!?

●参加料・前売り/1,000円 (当日は1,200円)  
●前売り券は5月20日(火)より、今井書店本の学校と錦町店、大山レークホテルその他で発売。  
※インターネットでのご予約も承ります。  
●詳細・問い合わせ  
<http://www.daisenking.net/>  
Phone/0859-52-3333 (大山レークホテル)

主催 大山王国



#### ●大工哲弘 プロフィール●

沖縄八重山民謡の第一人者で、伝承されてきた多彩な島唄に愛情を注ぎ込んで歌う姿勢が、世界中に多くの共感者をもつ。世界の民族音楽家、ジャズやロックのミュージシャンなどとの多彩な共演活動をはじめ、県内外の民謡教室での講師など琉球民謡の普及、育成にも力を注いでいる。現在、沖縄でもっとも幅広い活動をしているミュージシャンである。



#### ●六子(LOCO) プロフィール●

子供の頃に父の持っていたギターを弾き始めたのがきっかけで、兄弟3人全員が音楽に興味を持ちはじめ、六子は友人と二人で女性デュオ「ロッカ」を結成し、二人の兄弟は兄弟デュオ「遊吟」を結成する。その後、ロッカはNHKお〜いニッポン島根県のオーディションで優勝し「だんだん」を歌う。現在ロッカは解散して、作曲家「もりゆみこ」と女性デュオ「六子」を結成し、これまでに3枚のシングルを発売する。現在、初のフルアルバム「心唄」好評発売中!

#### ~六子からのメッセージ~

人気のTV番組「あいのり」の主題歌「Fate」でメジャーデビューさせて頂いた兄弟の「遊吟」は東京の事務所に移籍して活動中。私は地元島根からメジャーデビューし、山陰を拠点に全国で活動できるアーティストを目指しています。今年の秋に劇場公開されます映画「鎧」の主題歌タイアップが決まり、夢に向かって大きく前進することができました。これからも地元を大切に精一杯頑張りますので、応援よろしくお願い致します。



## 大山夏山開き

6/7・8(土)日

大山に夏の訪れを告げる二千本の炎の波…。恒例の「たいまつ行列」が感動的な7日の前夜祭に続き、8日は山頂で神事が営まれ、麓の博労座では「大山カラス天狗市」やフリマ、「癒しの森コンサート」などが賑やかに開催されます。

●「たいまつ」は、とよま旅館前の販売所で、1本500円(お守りと記念品付き)で購入できます。  
●ガイドとともに安心登山!  
8日の「山頂祭」にあなたも参加しませんか?  
●問い合わせ/TEL.0859-52-2502 (大山町観光局)

### 季節の花、季節の味覚

#### ●みやこわすれ

ミヤマヨメナ(深山嫁菜)の園芸種で江戸時代から改良され、山野にも自生し、可憐で清楚な感じが日本人には好まれます。承久の乱で佐渡に流された順徳天皇の、この清楚な花を見ると都への想いが忘れられる…。という言葉がその名の由来とされています。



#### ●あゆ

縄張りを守るために侵入者に攻撃を仕掛ける…。そんな鮎の性質を利用した「友釣り」の長い竿を持った太公望が川辺にひしめく季節です。香魚あるいは年魚とも呼ばれ、「アユ」の名は古語の「アユル」つまり産卵後に川を「落ちる」という意味からきたもの。鮎そのものも美味ですが、腸を塩からにした「ウルカ」もまた珍味。

